

文部科学省科学技術人材育成費補助金
ポストドクター・インターンシップ推進事業

海洋関連人材キャリアパス 開発プログラム R-MaST



国立大学法人

東京海洋大学

Tokyo University of Marine Science and Technology

R-MaST は "The Development Program of Career-path for the experts related to Marine Science and Technology" の略称です。



「海洋関連人材キャリアパス開発プログラム」 がはじまりました

東京海洋大学は、平成 23 年度に文部科学省科学技術人材育成費補助金「ポストドクター・インターンシップ推進事業」に採択され、本学ポストドクターおよび博士後期課程学生のキャリアパスの構築に取り組んでいます。本事業は、本学と環境調査・海洋観測・食品・流通などの企業と連携した長期インターンシップやキャリアワークショップなどの講義を通じて、今後の社会経済の各分野において指導的役割を果たすとともに、国際的にも活躍できる高度な専門能力を有する人材の養成を目的としています。



東京海洋大学長
岡本 信明

本学は、我が国唯一の海洋系総合大学として海洋に関する教育研究や人材養成に精力的に取り組んで参りましたが、この度文部科学省の補助を受けて、ポストドクターなど博士人材のキャリアパス開発支援に一層注力することになりました。本事業が海洋関連産業のさらなる発展につながると期待しています。



観測・調査等
キャリア開発室室長
竹内 俊郎

海洋関連産業界の業務には本来高い専門性が求められますが、近年のグローバル化に対応する業務水準の向上にはさらに高度な能力を有する博士人材の供給が課題となっています。本事業では、本学と関連分野の企業や団体との連携を強化し、企業等のニーズも踏まえつつ、本学の博士人材の多様なキャリアパスの構築を図ります。本事業には企業や団体の皆様のご協力が必要です。積極的なご参画およびご支援を賜りますようお願い申し上げます。



海洋関連産業界でグローバルに活躍する 博士人材の育成を目指して

海洋関連人材キャリアパス開発プログラム（R-MaST）



長期インターンシップ

本学ポストドクターおよび博士後期課程学生が、本学と企業等とのマッチングシステムを利用し民間企業などで3ヶ月程度の就業体験を行います。また、インターンシップ期間中は、給与（ポストドクターの場合のみ）および交通費などの費用を本学が負担します。

キャリアワークショップ

※年5回程度開催予定

民間企業関係者等が、社会人として専門分野にとらわれない就業に必要な知識やスキルなどの講義を行います。

（例）民間企業等で活躍する博士号取得者による体験談などを基にした講義等

懇談会

※年5回程度開催予定

民間企業関係者等と意見交換や交流を行い、社会人として必要な知識などを直接学ぶことができます。

R-MaST スキルアップセミナー

※年5回程度開催予定

専任教員や民間企業関係者等が、専門的な知識やスキルを高めるためケーススタディなどを活用したキャリアパス開発のための講義を行います。

（例）産業界ロールモデルによる専門技術等の講義等

その他

専門スタッフによるキャリアパス開発のための相談窓口を観測・調査等キャリア開発室に設置します。また、ウェブサイトを通じてのオンライン相談も受け付けます。



〔報告〕 キャリアワークショップと懇談会



平成 24 年 3 月 5 日にキックオフワークショップと懇談会を開催しました キックオフワークショップ「博士号を活かす未来へ」

大学院で博士号を取得した後に民間企業に就職し、現在も企業で活躍する 2 名の講師、杉浦琴氏（日本エヌ・ユー・エス株式会社）と森田哲朗氏（日本水産株式会社）を迎えて、博士号取得者が企業で働くことの意義についてご講演いただきました。また、平成 23 年度長期インターンシップ派遣者（小野敦史氏）によるインターンシップの中間報告も行いました。ワークショップには本学ポストドクターや民間企業関係者を含む合計 65 名が参加しました。

懇談会

ワークショップに引き続いて開催された懇談会には、本学ポストドクター・学生 5 名、民間企業関係者等 7 名、および本学教職員 14 名の合計 26 名が参加し、意見交換や交流が行われました。



（左上）神田観測・調査等キャリア開発室副室長，（真中上）杉浦琴氏，（右上）森田哲朗氏，
（左下）小野敦史氏，（真中下）会場の様子，（右下）懇談会の様子

平成 24 年度も多彩な活動を準備しております。是非ご参画ください。



観測・調査等キャリア開発室教員の紹介



竹内俊郎室長（大学院教授）

社会の活力となる若い博士人材が、産・学の枠を超えて活躍できる場の構築を目指します。



神田穰太副室長（大学院教授）

博士・企業・大学の三者が各分野における博士人材の位置づけの認識を共有し、博士人材が社会で広く活躍できる仕組みづくりを目指します。



松山優治特任教授

連携企業を拡充し、長期インターンシップ希望者をはじめとする博士人材と民間企業との円滑な疎通を支援します。



小松俊明特任教授

社会と博士人材とをつなぐ充実したワークショップやセミナーを企画し、博士人材の育成とキャリアパスの多様化の実現に取り組みます。

博士人材の未来、そして大学の役割とは

現代社会で今、最も必要とされている人材は、国際的に活躍できる高度な専門能力と応用力を有し、強いリーダーシップを発揮できる人材と言われています。博士人材は、博士号取得の過程でそれらの素養を身につけており、グローバル時代に活躍する即戦力として、企業からもますますの活躍を期待されています。こうした要請を受けて、博士人材は社会に出るまでの間に益々の自己研さんを進め、自らの意識改革にも取り組むことが求められています。

その上で大学がすべきことは、博士号取得者に対し、研究者育成の体制を保持しつつも、広く社会に適応できる総合的な能力を備えた人材として育成するための仕組みと支援体制を構築することと考えています。本プログラムのミッションは、専門知識や技術力の習得に加えて、それらを仕事の現場で発揮する社会性やバランス感覚、コミュニケーション能力や行動力を身につけるための訓練の場を、継続的に提供していくことです。



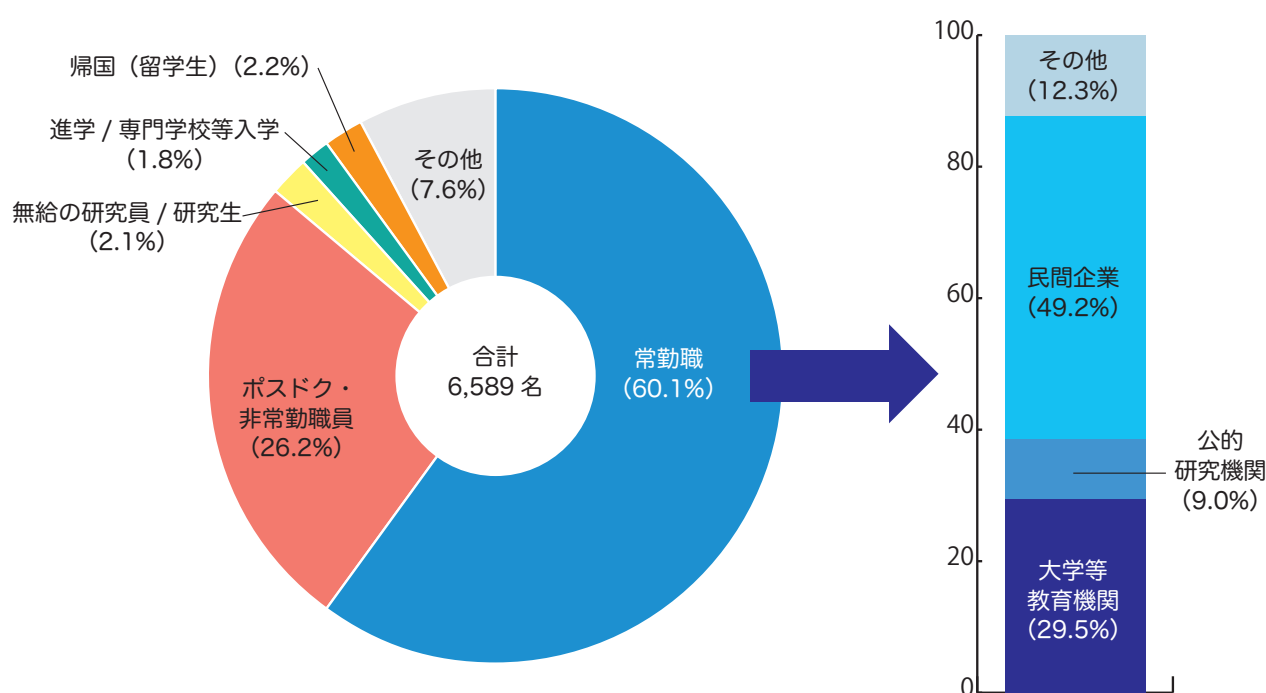
理系博士人材の活躍の場が広がる傾向に



近年、民間企業への就職を希望する博士号取得者は増加傾向にあります。一方、企業においても、ますますグローバル競争が激化していることを背景に、特に先進的な技術の研究が急がれる分野においては、高度な知識と技術をもつ博士人材の活用、そして大学や公的な研究機関との連携を求める傾向があります。産学が連携したそうした共同事業や共同研究の現場では、高度な専門知識と技術、高い事務処理能力やリサーチ力を備えた博士人材が、既に様々な分野で活躍しており、今後もますますその需要が高まることが予想されています。

一方で、アカデミアの世界で研究を継続することを希望する博士号取得者が多いことも事実であり、実際、教育機関や研究機関での就業を希望するものは、常勤・非常勤を合わせても、博士課程修了者のおよそ45%に及んでいます。これは、日本の常勤研究者としての正規雇用枠を大幅に上回っています。

文部科学省は、2020年までに理工系博士課程修了者の完全雇用の達成を目指すことを表明しています（平成22年6月閣議決定）。博士人材のキャリアパスの多様化は急務であり、企業で活躍する適性のある博士人材には、これまで以上に企業への就職が進むことが望まれています。



平成21年度の理工農学分野における博士課程修了者の進路動向（左）と、課程修了直後に常勤職に就いた者の就職先の内訳（右）
出典：博士課程修了者の進路実態に関する調査研究（2011）



様々な分野で活躍する博士人材育成のために

- 企業の皆様に期待すること -



博士人材の長期インターンシップ受け入れ

博士後期課程進学者にとって学位取得後の進路としては、「アカデミアの継続」、もしくは「企業への就職」という、大きな二つの選択肢があります。また、ポストドクターの場合でも、近い将来、企業への就職を視野に入れて現在の研究を続けている者もおります。本学は、社会の様々な分野で活躍することを希望する博士人材に対し、R-MaSTスキルアップセミナー（講座教育）と長期インターンシップ（民間企業における実務研修）の機会を与え、本人が学位取得後のキャリアパスを決めるための教育的な支援をしています。

長期インターンシップは、博士人材当人にとって企業の事業活動を現場で学ぶ貴重な機会であると同時に、「博士人材」として社会に貢献できる自らのポテンシャルを再認識するきっかけとなります。また、企業におかれましても、高い専門性と高度な事務処理能力を持つ博士人材が、企業の現場において即戦力となるポテンシャルを持っているということについて、じっくりとご検討頂く機会にもなります。

研究室で生まれる最新技術の活用

研究室で生まれる最新技術は、随時論文などを通じて社会に公表されていますが、それらは必ずしも産業界に直接的に還元されておらず、産学連携にはまだまだ大きなハードルが存在しています。本学は、研究室で生まれる多くの最新技術を社会で積極的に応用して頂き、産業界のイノベーション創出のきっかけを作りたいと考えており、本プログラムの長期インターンシップやワークショップが、そのきっかけとなることを期待しています。産学における人材交流が促進される中で、企業のニーズと博士人材のポテンシャルの調和が生まれ、新規の研究・事業が立ち上がる可能性もあります。将来、企業と本学との共同研究に発展することも期待しています。

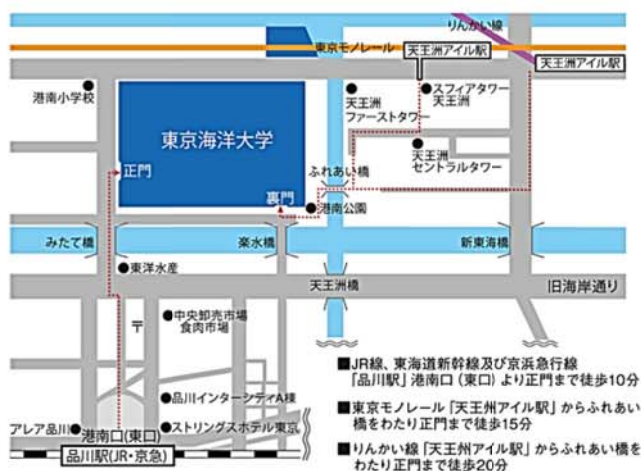
関連ワークショップや懇談会への参加

本プログラムでは、民間企業関係者を講師としてお招きするワークショップや、企業関係者と博士人材が直接意見交換や交流を行って頂ける懇談会を定期的に行います。これらの機会を通じ、本学博士人材のポテンシャルを広く企業の皆様にご理解頂くきっかけとなること、また博士人材においても将来の就業に先立ち、企業の求める人物像を正しく理解するなど、両者をつなぐ契機になれば幸いと考えております。是非、こうした活動にご理解を賜り、積極的にご参加ください。博士人材の育成と活用について、お力を貸してくださいますよう、お願い申し上げます。

平成24年度年間スケジュール（予定）



月	長期インターンシップ	ワークショップ・懇談会	R-MaST スキルアップセミナー
4月		第1回開催	
5月			第1回開催
6月	公募開始	第2回開催	
7月	選考		第2回開催
8月	派遣開始		
9月		第3回開催	
10月			第3回開催
11月			
12月		第4回開催	
1月			第4回開催
2月			
3月	報告会	第5回開催	第5回開催



お問い合わせ

国立大学法人東京海洋大学

観測・調査等キャリア開発室

電話：03-5463-0575

Email：rmast@m.kaiyodai.ac.jp

WEB：http://kaiyodai.rmast.net/

1 守衛所	13 7号館 / 産学・地域連携推進機構	25 大学会館
2 保健管理センター	14 放射性同位元素利用施設	26 講義棟
3 職員集会所	15 水理模型実験棟	27 5号館
4 本部管理棟	16 廃水処理施設	28 武道館
5 講堂	17 8号館	29 体育管理・合宿施設
6 回流水槽実験棟	18 9号館	30 課外活動施設
7 1号館	19 学生寮（附属寮）	31 特殊実験棟 / 情報処理センター
8 2号館	20 国際交流会館	32 体育館
9 飼育実験室	21 白鷹館	33 漁業機械学実験実習棟
10 3号館	22 薬水会館	34 船庫
11 4号館	23 水産資料館	
12 6号館	24 附属図書館	

正門から入ってすぐ左手にある白鷹館の2階、海洋観測支援センター内にあります。